

# 中間連結財務諸表

金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当行の前中間連結会計期間の中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書、中間連結株主資本等変動計算書及び中間連結キャッシュ・フロー計算書並びに前連結会計年度の連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結キャッシュ・フロー計算書については、あずさ監査法人の監査証明を受けております。また、当中間連結会計期間の中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書、中間連結株主資本等変動計算書及び中間連結キャッシュ・フロー計算書は、有限責任 あずさ監査法人の監査証明を受けております。

なお、あずさ監査法人は、監査法人の種類の変更により、平成22年7月1日をもって有限責任 あずさ監査法人となっております。

## 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	平成21年度中間期末 平成21年9月30日現在	平成22年度中間期末 平成22年9月30日現在	平成21年度末 平成22年3月31日現在
<b>(資産の部)</b>			
現金預け金	4,816,017	4,792,014 ※ <sup>8</sup>	5,783,155
コールローン及び買入手形	893,872	849,184 ※ <sup>8</sup>	1,106,145
買現先勘定	10,155	63,038	25,226
債券貸借取引支払保証金	1,303,187	4,948,482	5,414,500
買入金銭債権	896,161	1,050,093 ※ <sup>8</sup>	956,024
特定取引資産	4,754,546	8,435,501 ※ <sup>2,8</sup>	6,619,258
金銭の信託	9,177	18,251	18,734
有価証券	27,922,449	33,242,909 ※ <sup>1,2,8,14</sup>	28,422,362
貸出金	65,407,344	64,014,946 ※ <sup>3,4,5,6,7,8,9</sup>	63,406,825
外国為替	919,025	980,245 ※ <sup>7</sup>	1,107,289
リース債権及びリース投資資産	131,210	116,791 ※ <sup>8</sup>	123,706
その他資産	3,075,965	3,066,278 ※ <sup>8</sup>	2,415,605
有形固定資産	781,438	813,696 ※ <sup>10,11</sup>	812,334
無形固定資産	147,868	394,478	404,338
繰延税金資産	644,235	643,002	679,380
支払承諾見返	3,611,226	3,524,209	3,753,642
貸倒引当金	△1,027,953	△985,855	△1,007,160
<b>資産の部合計</b>	<b>114,295,928</b>	<b>125,967,269</b>	<b>120,041,369</b>

(次ページに続く)

(中間連結貸借対照表続き)

(単位：百万円)

科目	平成21年度中間期末 平成21年9月30日現在	平成22年度中間期末 平成22年9月30日現在	平成21年度末 平成22年3月31日現在
<b>(負債の部)</b>			
預金	76,023,886	78,243,942 <sup>※8</sup>	78,717,178
譲渡性預金	8,346,822	9,010,215	7,074,919
コールマネー及び売渡手形	2,962,996	2,236,437 <sup>※8</sup>	2,119,557
売現先勘定	1,091,918	1,135,743 <sup>※8</sup>	1,120,860
債券貸借取引受入担保金	2,925,047	3,460,943 <sup>※8</sup>	4,313,334
コマースャル・ペーパー	—	351,205	310,787
特定取引負債	3,469,900	6,563,324 <sup>※8</sup>	5,042,720
借入金	2,782,399	5,543,012 <sup>※8,12</sup>	4,030,914
外国為替	216,545	264,723	192,299
短期社債	198,164	336,985	381,678
社債	3,554,879	3,416,360 <sup>※13</sup>	3,339,672
信託勘定借	111,667	187,298	159,554
その他負債	2,881,534	4,497,976 <sup>※8</sup>	2,441,434
賞与引当金	18,363	27,912	35,415
役員賞与引当金	—	—	1,808
退職給付引当金	13,965	20,111	19,259
役員退職慰労引当金	6,325	1,415	6,863
ポイント引当金	—	2,027	—
睡眠預金払戻損失引当金	9,600	9,697	11,734
利息返還損失引当金	—	2,497	—
特別法上の引当金	0	42	34
繰延税金負債	24,556	24,198	26,167
再評価に係る繰延税金負債	47,151	46,949 <sup>※10</sup>	46,966
支払承諾	3,611,226	3,524,209 <sup>※8</sup>	3,753,642
<b>負債の部合計</b>	<b>108,296,951</b>	<b>118,907,231</b>	<b>113,146,805</b>
<b>(純資産の部)</b>			
資本金	1,262,959	1,770,996	1,770,996
資本剰余金	2,201,645	2,709,682	2,709,682
利益剰余金	563,267	995,333	668,074
株主資本合計	4,027,871	5,476,012	5,148,753
その他有価証券評価差額金	412,059	203,735	377,456
繰延ヘッジ損益	△20,915	18,309	△38,516
土地再評価差額金	35,105	34,873 <sup>※10</sup>	34,897
為替換算調整勘定	△80,200	△97,459	△99,481
評価・換算差額等合計	346,048	159,458	274,356
新株予約権	74	87	81
少数株主持分	1,624,981	1,424,480	1,471,373
<b>純資産の部合計</b>	<b>5,998,976</b>	<b>7,060,038</b>	<b>6,894,564</b>
<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>114,295,928</b>	<b>125,967,269</b>	<b>120,041,369</b>

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	平成21年度中間期 自平成21年4月1日 至平成21年9月30日	平成22年度中間期 自平成22年4月1日 至平成22年9月30日	平成21年度 自平成21年4月1日 至平成22年3月31日
<b>経常収益</b>	<b>1,267,989</b>	<b>1,486,244</b>	<b>2,579,933</b>
資金運用収益	808,874	757,282	1,598,464
(うち貸出金利息)	(643,763)	(578,995)	(1,257,034)
(うち有価証券利息配当金)	(125,030)	(133,454)	(238,944)
信託報酬	518	1,034	1,736
役務取引等収益	242,011	325,952	580,142
特定取引収益	118,901	175,920	156,570
その他業務収益	88,664	212,315	156,355
その他経常収益	9,017	13,739 <sup>*1</sup>	86,663
<b>経常費用</b>	<b>1,052,677</b>	<b>994,155</b>	<b>2,022,152</b>
資金調達費用	164,963	145,962	295,635
(うち預金利息)	(80,062)	(57,791)	(146,051)
役務取引等費用	65,633	73,392	127,756
その他業務費用	108,382	115,278	112,560
営業経費	449,741	540,733	988,409
その他経常費用	263,956	118,788 <sup>*2</sup>	497,789
<b>経常利益</b>	<b>215,311</b>	<b>492,089</b>	<b>557,781</b>
<b>特別利益</b>	<b>10,600</b>	<b>1,851<sup>*3</sup></b>	<b>17,741</b>
<b>特別損失</b>	<b>2,822</b>	<b>5,283<sup>*4,5</sup></b>	<b>17,143</b>
<b>税金等調整前中間(当期)純利益</b>	<b>223,089</b>	<b>488,656</b>	<b>558,379</b>
法人税、住民税及び事業税	39,232	27,220	69,246
法人税等調整額	847	30,040	75,282
<b>法人税等合計</b>	<b>40,080</b>	<b>57,261</b>	<b>144,529</b>
<b>少数株主損益調整前中間純利益</b>		<b>431,395</b>	
<b>少数株主利益</b>	<b>48,539</b>	<b>41,457</b>	<b>81,352</b>
<b>中間(当期)純利益</b>	<b>134,469</b>	<b>389,937</b>	<b>332,497</b>

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

	平成21年度中間期 自平成21年4月1日 至平成21年9月30日	平成22年度中間期 自平成22年4月1日 至平成22年9月30日	平成21年度 自平成21年4月1日 至平成22年3月31日
株主資本			
資本金			
前期末残高	664,986	1,770,996	664,986
当中間期(当期)変動額			
新株の発行	597,972	—	1,106,010
当中間期(当期)変動額合計	597,972	—	1,106,010
当中間期(当期)末残高	1,262,959	1,770,996	1,770,996
資本剰余金			
前期末残高	1,603,672	2,709,682	1,603,672
当中間期(当期)変動額			
新株の発行	597,972	—	1,106,010
当中間期(当期)変動額合計	597,972	—	1,106,010
当中間期(当期)末残高	2,201,645	2,709,682	2,709,682
利益剰余金			
前期末残高	448,750	668,074	448,750
当中間期(当期)変動額			
剰余金の配当	△19,947	△62,702	△113,314
中間(当期)純利益	134,469	389,937	332,497
土地再評価差額金の取崩	△5	24	141
当中間期(当期)変動額合計	114,516	327,259	219,323
当中間期(当期)末残高	563,267	995,333	668,074
株主資本合計			
前期末残高	2,717,409	5,148,753	2,717,409
当中間期(当期)変動額			
新株の発行	1,195,945	—	2,212,020
剰余金の配当	△19,947	△62,702	△113,314
中間(当期)純利益	134,469	389,937	332,497
土地再評価差額金の取崩	△5	24	141
当中間期(当期)変動額合計	1,310,462	327,259	2,431,343
当中間期(当期)末残高	4,027,871	5,476,012	5,148,753

(単位：百万円)

	平成21年度中間期 自平成21年4月1日 至平成21年9月30日	平成22年度中間期 自平成22年4月1日 至平成22年9月30日	平成21年度 自平成21年4月1日 至平成22年3月31日
評価・換算差額等			
その他有価証券評価差額金			
前期末残高	△ 60,148	377,456	△ 60,148
当中間期(当期)変動額			
株主資本以外の項目の当中間期(当期)変動額(純額)	472,207	△ 173,721	437,605
当中間期(当期)変動額合計	472,207	△ 173,721	437,605
当中間期(当期)末残高	412,059	203,735	377,456
繰延ヘッジ損益			
前期末残高	△ 20,306	△ 38,516	△ 20,306
当中間期(当期)変動額			
株主資本以外の項目の当中間期(当期)変動額(純額)	△ 608	56,826	△ 18,209
当中間期(当期)変動額合計	△ 608	56,826	△ 18,209
当中間期(当期)末残高	△ 20,915	18,309	△ 38,516
土地再評価差額金			
前期末残高	35,099	34,897	35,099
当中間期(当期)変動額			
株主資本以外の項目の当中間期(当期)変動額(純額)	5	△ 24	△ 201
当中間期(当期)変動額合計	5	△ 24	△ 201
当中間期(当期)末残高	35,105	34,873	34,897
為替換算調整勘定			
前期末残高	△ 120,606	△ 99,481	△ 120,606
当中間期(当期)変動額			
株主資本以外の項目の当中間期(当期)変動額(純額)	40,405	2,022	21,124
当中間期(当期)変動額合計	40,405	2,022	21,124
当中間期(当期)末残高	△ 80,200	△ 97,459	△ 99,481
評価・換算差額等合計			
前期末残高	△ 165,961	274,356	△ 165,961
当中間期(当期)変動額			
株主資本以外の項目の当中間期(当期)変動額(純額)	512,010	△ 114,897	440,317
当中間期(当期)変動額合計	512,010	△ 114,897	440,317
当中間期(当期)末残高	346,048	159,458	274,356
新株予約権			
前期末残高	66	81	66
当中間期(当期)変動額			
株主資本以外の項目の当中間期(当期)変動額(純額)	8	5	15
当中間期(当期)変動額合計	8	5	15
当中間期(当期)末残高	74	87	81
少数株主持分			
前期末残高	1,967,133	1,471,373	1,967,133
当中間期(当期)変動額			
株主資本以外の項目の当中間期(当期)変動額(純額)	△ 342,151	△ 46,893	△ 495,760
当中間期(当期)変動額合計	△ 342,151	△ 46,893	△ 495,760
当中間期(当期)末残高	1,624,981	1,424,480	1,471,373
純資産合計			
前期末残高	4,518,647	6,894,564	4,518,647
当中間期(当期)変動額			
新株の発行	1,195,945	—	2,212,020
剰余金の配当	△ 19,947	△ 62,702	△ 113,314
中間(当期)純利益	134,469	389,937	332,497
土地再評価差額金の取崩	△ 5	24	141
株主資本以外の項目の当中間期(当期)変動額(純額)	169,866	△ 161,785	△ 55,426
当中間期(当期)変動額合計	1,480,328	165,473	2,375,917
当中間期(当期)末残高	5,998,976	7,060,038	6,894,564

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

区分	平成21年度中間期	平成22年度中間期	平成21年度
	自平成21年4月1日 至平成21年9月30日	自平成22年4月1日 至平成22年9月30日	自平成21年4月1日 至平成22年3月31日
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>			
税金等調整前中間(当期)純利益	223,089	488,656	558,379
減価償却費	39,760	47,570	89,107
減損損失	1,763	1,312	11,762
のれん償却額	3,921	7,338	8,338
段階取得に係る差損益(△は益)	—	△987	—
持分法による投資損益(△は益)	△1,555	4,384	△760
貸倒引当金の増減額(△は減少)	17,115	△15,719	△18,625
賞与引当金の増減額(△は減少)	△1,629	△7,295	6,596
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△166	△1,808	634
退職給付引当金の増減額(△は減少)	597	993	△1,347
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△321	△5,467	203
ポイント引当金の増減額(△は減少)	—	△515	—
睡眠預金払戻損失引当金の増減(△)	△2,167	△2,036	△43
利息返還損失引当金の増減額(△は減少)	—	△0	—
資金運用収益	△808,874	△757,282	△1,598,464
資金調達費用	164,963	145,962	295,635
有価証券関係損益(△)	△35,512	△137,133	△52,542
金銭の信託の運用損益(△は運用益)	71	257	245
為替差損益(△は益)	162,466	272,881	82,955
固定資産処分損益(△は益)	△9,236	1,367	△11,832
特定取引資産の純増(△)減	139,760	△1,839,149	△982,817
特定取引負債の純増減(△)	△191,538	1,545,719	1,162,430
貸出金の純増(△)減	969,918	△753,413	3,763,891
預金の純増減(△)	427,401	△281,195	1,938,832
譲渡性預金の純増減(△)	888,192	1,943,985	△385,743
借入金(劣後特約付借入金を除く)の純増減(△)	△384,981	1,543,368	576,870
有利息預け金の純増(△)減	△525,494	△84,205	△783,184
コールローン等の純増(△)減	△161,368	84,891	△464,382
債券貸借取引支払保証金の純増(△)減	512,008	466,017	△3,205,758
コールマネー等の純増減(△)	769,564	157,326	△473,642
コマースナル・ペーパーの純増減(△)	—	40,418	310,787
債券貸借取引受入担保金の純増減(△)	△4,652,062	△852,390	△3,399,730
外国為替(資産)の純増(△)減	△37,906	91,651	△220,622
外国為替(負債)の純増減(△)	△64,836	72,631	△89,277
リース債権及びリース投資資産の純増(△)減	4,824	2,413	15,033
短期社債(負債)の純増減(△)	83,921	△44,693	243,436
普通社債発行及び償還による増減(△)	△59,350	244,271	△176,344
信託勘定借の純増減(△)	50,748	27,744	98,635
資金運用による収入	851,735	762,296	1,663,735
資金調達による支出	△170,528	△151,104	△322,575
その他	△1,099,650	△320,528	△360,784
小計	△2,895,356	2,698,533	△1,720,967
法人税等の支払額	△30,737	△30,521	△70,813
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△2,926,094</b>	<b>2,668,012</b>	<b>△1,791,781</b>

(単位：百万円)

区分	平成21年度中間期 自平成21年4月1日 至平成21年9月30日	平成22年度中間期 自平成22年4月1日 至平成22年9月30日	平成21年度 自平成21年4月1日 至平成22年3月31日
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>			
有価証券の取得による支出	△23,158,249	△35,937,809	△46,277,176
有価証券の売却による収入	16,186,595	25,322,926	32,435,899
有価証券の償還による収入	8,305,481	7,270,256	14,265,886
金銭の信託の増加による支出	△238	△500	△9,748
金銭の信託の減少による収入	—	500	27
有形固定資産の取得による支出	△32,633	△22,161	△62,160
有形固定資産の売却による収入	24,749	350	30,550
無形固定資産の取得による支出	△24,601	△25,836	△57,152
無形固定資産の売却による収入	40	29	68
子会社株式の売却による収入	—	314	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△26,462	△10,756	△536,316
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,274,680</b>	<b>△3,402,685</b>	<b>△210,123</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>			
劣後特約付借入れによる収入	—	10,000	8,000
劣後特約付借入金の返済による支出	△58,000	△25,000	△78,000
劣後特約付社債及び新株予約権付社債の発行による収入	250,800	93,274	610,800
劣後特約付社債及び新株予約権付社債の償還による支出	△181,220	△246,878	△639,981
株式の発行による収入	1,191,759	—	2,204,277
配当金の支払額	△19,947	△62,702	△113,314
少数株主への払戻による支出	△340,000	△225	△492,987
少数株主への配当金の支払額	△43,911	△35,482	△89,785
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>799,479</b>	<b>△267,014</b>	<b>1,409,008</b>
<b>現金及び現金同等物に係る換算差額</b>	<b>△246</b>	<b>△8,194</b>	<b>△306</b>
<b>現金及び現金同等物の増減額(△は減少)</b>	<b>△852,180</b>	<b>△1,009,882</b>	<b>△593,202</b>
<b>現金及び現金同等物の期首残高</b>	<b>3,771,699</b>	<b>3,358,994</b>	<b>3,771,699</b>
連結子会社の合併による現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	—	—	180,498
<b>現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高</b>	<b>2,919,518</b>	<b>2,349,112 *1</b>	<b>3,358,994</b>

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社 155社

主要な会社名  
株式会社みなと銀行  
株式会社関西アーバン銀行  
Sumitomo Mitsui Banking Corporation Europe Limited  
三井住友銀行(中国)有限公司  
日興コーディアル証券株式会社  
SMBC ファイナンスサービス株式会社  
SMBC Capital Markets, Inc.

なお、SMBCベンチャーキャピタル株式会社他3社は株式取得等により、当中間連結会計期間より連結子会社としております。また、Beatle Pte Ltd. 他1社は清算により子会社でなくなったため、当中間連結会計期間より連結子会社から除外しております。

(2) 非連結子会社

主要な会社名  
SBCS Co., Ltd.  
非連結子会社の総資産、経常収益、中間純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等のそれぞれの合計額は、連結の範囲から除いても企業集団の財政状態及び経営成績に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものであります。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の非連結子会社 4社

主要な会社名  
SBCS Co., Ltd.

(2) 持分法適用の関連会社 29社

主要な会社名  
プロミス株式会社  
NIFSMBC-B2007-B投資事業有限責任組合他2社は新規設立等により、当中間連結会計期間より持分法適用の関連会社としております。また、大和SMBCキャピタル株式会社他5社は株式売却等により関連会社でなくなったため、当中間連結会計期間より持分法適用の関連会社から除外しております。

(3) 持分法非適用の非連結子会社

該当ありません。

(4) 持分法非適用の関連会社

主要な会社名  
Sumitomo Mitsui Asset Management (New York) Inc.  
持分法非適用の関連会社の中間純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等のそれぞれの合計額は、持分法適用の対象から除いても企業集団の財政状態及び経営成績に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものであります。

3. 連結子会社の中間決算日等に関する事項

(1) 連結子会社の中間決算日は次のとおりであります。

3月末日 3社  
4月末日 1社  
6月末日 57社  
7月末日 11社  
9月末日 83社

(2) 3月末日を中間決算日とする連結子会社は9月末日現在、4月末日を中間決算日とする連結子会社は7月末日現在、並びに一部の6月末日及び7月末日を中間決算日とする連結子会社については9月末日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表により、また、その他の連結子会社については、それぞれの中間決算日の財務諸表により連結しております。

なお、平成22年8月に設立された6月末日を中間決算日とする連結子会社については、9月末日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表により連結しております。中間連結決算日と上記の中間決算日等との間に生じた重要な取引については、必要な調整を行っております。

4. 開示対象特別目的会社に関する事項

(1) 開示対象特別目的会社の概要及び開示対象特別目的会社を利用した取引の概要

当行は、顧客から売掛債権の金銭債権買取業務等を行う特別目的会社(ケイマン法人及び一般社団法人等の形態によっております。)12社に係る借入及びコマース・ペーパーでの資金調達に関し、貸出金、信用枠及び流動性枠を供与しております。特別目的会社12社の直近の決算日における資産総額(単純合算)は、2,265,665百万円、負債総額(単純合算)は2,265,437百万円であり、なお、いずれの特別目的会社についても、当行は議決権のある出資等は有しておらず、役員や従業員の派遣もありません。

(2) 当中間連結会計期間における開示対象特別目的会社との取引金額等 (単位:百万円)

主な取引の 当中間連結会計期間末残高 平成22年9月30日現在		主な損益 自平成22年4月1日 至平成22年9月30日	
項目	金額	項目	金額
貸出金	1,651,358	貸出金利息	8,373
信用枠	494,261	役員取引等収益	815
流動性枠	232,441		

5. 会計処理基準に関する事項

(1) 特定取引資産・負債の評価基準及び収益・費用の計上基準

金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標に係る短期的な変動、市場間の格差等を利用して利益を得る等の目的(以下、「特定取引目的」という。)の取引については、取引の約定時点を基準とし、中間連結貸借対照表上「特定取引資産」及び「特定取引負債」に計上するとともに、当該取引からの損益を中間連結損益計算書上「特定取引収益」及び「特定取引費用」に計上しております。特定取引資産及び特定取引負債の評価は、有価証券及び金銭債権等については中間連結決算日等の時価により、スワップ・先物・オプション取引等の派生商品については中間連結決算日等において決済したもののみとした額により行っております。また、特定取引収益及び特定取引費用の損益計上は、当中間連結会計期間中の受払利息等に、有価証券、金銭債権等については前連結会計年度末と当中間連結会計期間末における評価損益の増減額を、派生商品については前連結会計年度末と当中間連結会計期間末におけるのみした決済からの損益相当額の増減額を加えております。

(2) 有価証券の評価基準及び評価方法

①有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、持分法非適用の非連結子会社株式及び持分法非適用の関連会社株式については移動平均法による原価法、その他有価証券で時価のあるもの(外国株式を含む。)については中間連結決算日前1カ月の市場価格の平均等、それ以外については中間連結決算日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は主として移動平均法により算定)、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法により行っております。なお、その他有価証券の評価差額については、時価ヘッジの適用により損益に反映させた額を除き、全部純資産直入法により処理しております。

②金銭的信託において信託財産を構成している有価証券の評価は、上記(1)及び(2)①と同じ方法により行っております。

(3) デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引(特定取引目的の取引を除く。)の評価は、時価法により行っております。

(4) 減価償却の方法

①有形固定資産(リース資産を除く)  
当行の有形固定資産は、定額法(ただし、建物以外については定率法)を採用し、年間減価償却費見積額を期間により按分して計上しております。また、主な耐用年数は次のとおりであります。  
建物 7年~50年  
その他 2年~20年  
連結子会社の有形固定資産については、資産の見積耐用年数に基づき、主として定額法により償却しております。



- ②無形固定資産  
無形固定資産は、定額法により償却しております。  
なお、自社利用のソフトウェアについては、当行及び国内連結子会社における利用可能期間(主として5年)に基づいて償却しております。
- ③リース資産  
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。
- (5) 貸倒引当金の計上基準  
当行及び主要な連結子会社の貸倒引当金は、予め定めている償却引当基準に則り、次のとおり計上しております。  
破産、特別清算等、法的に経営破綻の事実が発生している債務者(以下、「破綻先」という。)に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者(以下、「実質破綻先」という。)に係る債権については、下記直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者(以下、「破綻懸念先」という。)に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。  
なお、当行においては、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる破綻懸念先に係る債権及び債権の全部又は一部が3カ月以上延滞債権又は貸出条件緩和債権に分類された今後の管理に注意を要する債務者に対する債権のうち与信額一定額以上の大口債務者に係る債権等については、キャッシュ・フロー見積法(DCF法)を適用し、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もり、当該キャッシュ・フローを当初の約定利率率で割引いた金額と債権の帳簿価額との差額を計上しております。  
上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績等から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。特定海外債権については、対象国の政治経済情勢等を勘案して必要と認められる金額を特定海外債権引当勘定として計上しております。  
すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業部店と所管審査部が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。  
その他の連結子会社の貸倒引当金は、一般債権については過去の貸倒実績率等を勘案して必要と認められた額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額をそれぞれ計上しております。  
なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は786.398百万円であります。
- (6) 賞与引当金の計上基準  
賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当中間連結会計期間に帰属する額を計上しております。
- (7) 退職給付引当金の計上基準  
退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当中間連結会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。また、過去勤務債務及び数理計算上の差異の損益処理方法は以下のとおりであります。  
過去勤務債務：  
その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(主として9年)による定額法により損益処理  
数理計算上の差異：  
各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(主として9年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の際連結会計年度から損益処理
- (8) 役員退職慰労引当金の計上基準  
役員退職慰労引当金は、役員(執行役員を含む。)に対する退職慰労金の支払いに備えるため、内規に基づく当中間連結会計期間末の要支給額を計上しております。
- (9) ポイント引当金の計上基準  
ポイント引当金は、「SMBC ポイントバック」やクレジットカードのポイント制度等において顧客へ付与したポイントの将来の利用による負担に備えるため、未利用の付与済ポイントを金額に換算した残高のうち、将来利用される見込額を合理的に見積もり、必要と認める額を計上しております。
- (10) 睡眠預金払戻損失引当金の計上基準  
睡眠預金払戻損失引当金は、一定の条件を満たし負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、過去の払戻実績に基づく将来の払戻損失見込額を計上しております。
- (11) 利息返還損失引当金の計上基準  
利息返還損失引当金は、将来の利息返還の請求に備えるため、過去の返還実績等に基づく将来の返還損失見込額を計上しております。
- (12) 特別法上の引当金の計上基準  
特別法上の引当金は、金融商品取引責任準備金であり、有価証券の売買その他の取引又はデリバティブ取引等に関して生じた事故による損失の補てんに充てるため、金融商品取引法第46条の5の規定に基づき計上しております。
- (13) 外貨建資産・負債の換算基準  
当行の外貨建資産・負債及び海外支店勘定については、取得時の為替相場による円換算額を付す子会社株式及び関連会社株式を除き、主として中間連結決算日の為替相場による円換算額を付しております。  
また、連結子会社の外貨建資産・負債については、それぞれの中間決算日等の為替相場により換算しております。
- (14) リース取引等に関する収益及び費用の計上基準  
①ファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準  
受取利息相当額を収益として各期に配分する方法によっております。  
②オペレーティング・リース取引の収益の計上基準  
主に、リース期間に基づくリース契約上の収受すべき月当たりのリース料を基準として、その経過期間に対応するリース料を計上しております。  
③割賦販売取引の売上高及び売上原価の計上基準  
主に、割賦契約による支払期日を基準として当該経過期間に対応する割賦売上高及び割賦原価を計上しております。
- (15) 重要なヘッジ会計の方法  
・金利リスク・ヘッジ  
当行は、金融資産・負債から生じる金利リスクのヘッジ取引に対するヘッジ会計の方法として、繰延ヘッジを適用しております。  
小口多数の金銭債権債務に対する包括ヘッジについては、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号。以下、「業種別監査委員会報告第24号」という。)に規定する繰延ヘッジを適用しております。  
相場変動を相殺する包括ヘッジの場合には、ヘッジ対象となる預金・貸出金等とヘッジ手段である金利スワップ取引等を残存期間ごとにグルーピングのうえ有効性の評価をしております。また、キャッシュ・フローを固定する包括ヘッジの場合には、ヘッジ対象とヘッジ手段の金利変動要素の相関関係の検証により有効性の評価をしております。  
個別ヘッジについても、当該個別ヘッジに係る有効性の評価をしております。  
また、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第15号)を適用して実施してまいりました多数の貸出金・預金等から生じる金利リスクをデリバティブ取引を用いて総体で管理する従来の「マクロヘッジ」に基づく繰延ヘッジ損益のうち、業種別監査委員会報告第24号の適用に伴いヘッジ会計を中止又は時価ヘッジに移行したヘッジ手段に係る金額については、個々のヘッジ手段の金利計

算期間に応じ、平成15年度から最長12年間にわたって資金調達費用又は資金運用収益として期間配分しております。なお、当中間連結会計期間末における「マクロヘッジ」に基づく繰延ヘッジ損失の総額は1,503百万円(税効果額控除前)、繰延ヘッジ利益の総額は1,506百万円(同前)であります。

#### ・為替変動リスク・ヘッジ

当行は、異なる通貨での資金調達・運用を動機として行われる通貨スワップ取引及び為替スワップ取引について、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号。以下、「業種別監査委員会報告第25号」という。)に基づく繰延ヘッジを適用しております。

これは、異なる通貨での資金調達・運用に伴う外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引について、その外貨ポジションに見合う外貨建金銭債権債務等が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価するものであります。

また、外貨建子会社株式及び関連会社株式並びに外貨建の他有価証券(債券以外)の為替変動リスクをヘッジするため、事前にヘッジ対象となる外貨建有価証券の銘柄を特定し、当該外貨建有価証券について外貨ベースで取得原価以上の直先負債が存在していること等を条件に、包括ヘッジとして繰延ヘッジ又は時価ヘッジを適用しております。

#### ・株価変動リスク・ヘッジ

当行は、その他有価証券のうち政策投資目的で保有する株式の相場変動を相殺する個別ヘッジについては時価ヘッジを適用しており、当該個別ヘッジに係る有効性の評価をしております。

#### ・連結会社間取引等

デリバティブ取引のうち連結会社間及び特定取引勘定とそれ以外の勘定との間(又は内部部門間)の内部取引については、ヘッジ手段として指定している金利スワップ取引及び通貨スワップ取引等に対して、業種別監査委員会報告第24号及び同第25号に基づき、恣意性を排除し厳格なヘッジ運営が可能と認められる対外カバー取引の基準に準拠した運営を行っているため、当該金利スワップ取引及び通貨スワップ取引等から生じる収益及び費用は消去せずに損益認識又は繰延処理を行っております。

なお、一部の連結子会社において、繰延ヘッジ又は時価ヘッジあるいは金利スワップの特例処理を適用しております。

#### (16) のれんの償却方法及び償却期間

日興コーディアル証券株式会社及び株式会社関西アーバン銀行に係るのれんは20年間の均等償却、その他については発生年度に全額償却しております。

#### (17) 中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、現金、無利息預け金及び日本銀行への預け金であります。

#### (18) 消費税等の会計処理

当行及び国内連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

#### (19) 税効果会計に関する事項

中間連結会計期間に係る納付税額及び法人税等調整額は、当行及び国内連結子会社の決算期において予定している剰余金の処分による海外投資等損失準備金の積立て及び取崩しを前提として、当中間連結会計期間に係る金額を計算しております。

### 【中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更】 (資産除去債務に関する会計基準)

「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)が平成22年4月1日以後開始する連結会計年度から適用されることになったことに伴い、当中間連結会計期間から同会計基準及び適用指針を適用しております。これにより、従来の方法に比べ、経常利益は165百万円、税金等調整前中間純利益は2,772百万円減少しております。

### (企業結合に関する会計基準等)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 最終改正平成20年12月26日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)、「研究開発費等に係る会計基準」の一部改正(企業会計基準第23号 平成20年12月26日)、「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 最終改正平成20年12月26日)、「持分法に関する会計基準」(企業会計基準第16号 平成20年12月26日公表分)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 最終改正平成20年12月26日)が平成22年4月1日以後開始する連結会計年度から適用されることになったことに伴い、当中間連結会計期間から各会計基準及び適用指針を適用しております。

### 【表示方法の変更】

#### (中間連結貸借対照表関係)

前中間連結会計期間において、「その他負債」に含めて表示しておりました「ポイント引当金」(前中間連結会計期間1,913百万円)及び「利息返還損失引当金」(前中間連結会計期間2,252百万円)は、重要性が増したため、当中間連結会計期間より区分掲記しております。

#### (中間連結損益計算書関係)

「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等」の一部を改正する内閣府令(内閣府令第5号 平成21年3月24日)が平成22年4月1日以後開始する連結会計年度から適用されることになったことに伴い、当中間連結会計期間より「少数株主損益調整前中間純利益」の科目を表示しております。

#### (中間連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前中間連結会計期間において、「その他」に含めて表示しておりました「ポイント引当金の増減額(△は減少)」(前中間連結会計期間△1,146百万円)及び「利息返還損失引当金の増減額(△は減少)」(前中間連結会計期間196百万円)は、重要性が増したため、当中間連結会計期間より区分掲記しております。

### 【追加情報】

#### (持分法に関する会計基準)

「持分法に関する会計基準」(企業会計基準第16号 平成20年3月10日公表分)及び「持分法適用関連会社の会計処理に関する当面の取扱い」(実務対応報告第24号 平成20年3月10日)が平成22年4月1日以後開始する連結会計年度から適用されることになったことに伴い、当中間連結会計期間から同会計基準及び実務対応報告を適用しております。これによる中間連結財務諸表への影響はありません。

(中間連結貸借対照表関係)

- ※1. 有価証券には、非連結子会社及び関連会社の株式193,465百万円及び出資金1,434百万円を含んでおります。
- ※2. 無担保の消費貸借契約により貸し付けている有価証券が、「有価証券」中の国債及び「特定取引資産」中の商品有価証券に合計42,581百万円含まれております。  
無担保の消費貸借契約により借り入れている有価証券並びに現先取引及び現金担保付債券貸借取引により受け入れている有価証券のうち、売却又は(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有する有価証券で、(再)担保に差し入れている有価証券は2,906,377百万円、当中間連結会計期間末に当該処分をせずに所有しているものは169,074百万円です。
- ※3. 貸出金のうち、破綻先債権額は116,253百万円、延滞債権額は994,471百万円です。  
なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償を行った部分を除く。以下、「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税法施行令(昭和40年政令第97号)第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。  
また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。
- ※4. 貸出金のうち、3カ月以上延滞債権額は29,642百万円です。  
なお、3カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3カ月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。
- ※5. 貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は305,648百万円です。  
なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3カ月以上延滞債権に該当しないものであります。
- ※6. 破綻先債権額、延滞債権額、3カ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は1,446,014百万円です。  
なお、上記3.から6.に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。
- ※7. 手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号)に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた銀行引受手形、商業手形、荷付為替手形及び買入外国為替は、売却又は(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は636,952百万円です。
- ※8. 担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産	
現金預け金	3,028百万円
コールローン及び買入手形	406,577百万円
買入金銭債権	4,367百万円
特定取引資産	2,976,510百万円
有価証券	3,801,915百万円
貸出金	1,780,814百万円
リース債権及びリース投資資産	6,351百万円
その他資産(延払資産等)	2,106百万円
担保資産に対応する債務	
預金	24,504百万円
コールマネー及び売渡手形	735,000百万円
売現先勘定	1,135,743百万円
債券貸借取引受入担保金	2,134,722百万円
特定取引負債	418,612百万円
借入金	2,968,142百万円
その他負債	4,262百万円
支払承諾	111,433百万円

上記のほか、資金決済等の取引の担保あるいは先物取引証拠金等の

代用として、現金預け金27,103百万円、特定取引資産296,281百万円、有価証券16,540,440百万円及び貸出金3,034,650百万円を差し入れております。

また、その他資産のうち保証金は97,043百万円、先物取引差入証拠金は9,902百万円、その他の証拠金等は95,361百万円です。

- ※9. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸し付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は、40,184,477百万円です。このうち原契約期間が1年以内のもの又は任意の時期に無条件で取消可能なものが34,476,305百万円あります。

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行及び連結子会社の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行及び連結子会社が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている社内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

- ※10. 当行及び一部の連結子会社は、土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)及び土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律(平成13年3月31日公布法律第19号)に基づき、事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額のうち親会社持分相当額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。  
また、一部の持分法適用の関連会社も同法律に基づき事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を控除した金額のうち親会社持分相当額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

再評価を行った年月日

当行

平成10年3月31日及び平成14年3月31日

一部の連結子会社及び持分法適用の関連会社

平成11年3月31日、平成14年3月31日

同法律第3条第3項に定める再評価の方法

当行

土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第3号に定める固定資産税評価額、同条第4号に定める路線価及び同条第5号に定める不動産鑑定士又は不動産鑑定士補による鑑定評価に基づいて、奥行価格補正、時点修正、近隣売買事例による補正等、合理的な調整を行った算出。

一部の連結子会社及び持分法適用の関連会社

土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第3号に定める固定資産税評価額及び同条第5号に定める不動産鑑定士又は不動産鑑定士補による鑑定評価に基づいて算出。

- ※11. 有形固定資産の減価償却累計額 550,961百万円
- ※12. 借入金には、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付借入金363,731百万円が含まれております。
- ※13. 社債には、劣後特約付社債2,065,578百万円が含まれております。
- ※14. 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)による社債に対する保証債務の額は2,066,769百万円です。

**(中間連結損益計算書関係)**

- ※1. その他経常収益には、株式等売却益5,475百万円を含んでおります。
- ※2. その他経常費用には、貸倒引当金繰入額39,331百万円、貸出金償却38,488百万円及び株式等償却23,787百万円を含んでおります。
- ※3. 特別利益には、償却債権取立益856百万円及び段階取得に係る差益987百万円を含んでおります。
- ※4. 特別損失には、固定資産処分損1,375百万円、減損損失1,312百万円及び資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額2,588百万円を含んでおります。
- ※5. 当中間連結会計期間において、以下の資産について、回収可能価額と帳簿価額との差額を減損損失として特別損失に計上しております。

(単位：百万円)

地域	主な用途	種類	減損損失額
首都圏	共用資産 3物件	土地、建物等	39
	遊休資産 23物件		529
	その他 1物件		13
近畿圏	遊休資産 25物件	土地、建物等	716
	その他 遊休資産 5物件		土地、建物等

当行は、継続的な収支の管理・把握を実施している各営業拠点(物理的に同一の資産を共有する拠点)をグルーピングの最小単位としております。本店、研修所、事務・システムの集中センター、福利厚生施設等の独立したキャッシュ・フローを生み出さない資産は共用資産としております。また、遊休資産については、物件ごとにグルーピングの単位としております。また、連結子会社については、各営業拠点をグルーピングの最小単位とする等の方法でグルーピングを行っております。

当中間連結会計期間は、当行では共用資産及び遊休資産について、また、連結子会社については、共用資産、遊休資産等について、投資額の回収が見込まれない場合に、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。回収可能価額は、主として正味売却価額により算出しております。正味売却価額は、不動産鑑定評価基準に準拠した評価額から処分費用見込額を控除する等により算出しております。

**(中間連結株主資本等変動計算書関係)**

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

(単位：株)

	前連結会計年度末株式数	当中間連結会計期間増加株式数	当中間連結会計期間減少株式数	当中間連結会計期間末株式数
発行済株式				
普通株式	106,248,400	—	—	106,248,400
第1回第六種優先株式	70,001	—	—	70,001
合計	106,318,401	—	—	106,318,401

2. 新株予約権に関する事項

(単位：株、百万円)

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の目的となる株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数			当中間連結会計期間末残高
			前連結会計年度末	当中間連結会計期間増加	当中間連結会計期間末減少	
連結子会社	—	—	—	—	—	87
合計	—	—	—	—	—	87

3. 配当に関する事項

- (1) 当中間連結会計期間中の配当金支払額

株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)
普通株式	59,605	561
第1回第六種優先株式	3,097	44,250

※決議：平成22年6月29日 定時株主総会  
基準日：平成22年3月31日  
効力発生日：平成22年6月29日

- (2) 基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間連結会計期間の末日後となるもの

株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)
普通株式	125,373	1,180
第1回第六種優先株式	3,097	44,250

※決議：平成22年11月12日 取締役会  
配当の原資：利益剰余金  
基準日：平成22年9月30日  
効力発生日：平成22年11月25日

**(中間連結キャッシュ・フロー計算書関係)**

- ※1. 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

(単位：百万円)

	平成22年9月30日現在
現金預け金勘定	4,792,014
日本銀行への預け金を除く有利息預け金	△2,442,902
現金及び現金同等物	2,349,112

**(リース取引関係)**

1. ファイナンス・リース取引

- (1) 借手側

- ①リース資産の内容

- (ア)有形固定資産

主として、店舗及び事務システム機器等であります。

- (イ)無形固定資産

ソフトウェアであります。

- ②リース資産の減価償却の方法

中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 5. 会計処理基準に関する事項(4)減価償却の方法に記載のとおりであります。

- (2) 貸手側

- ①リース投資資産の内訳

(単位：百万円)

リース料債権部分	102,492
見積残存価額部分	32,457
受取利息相当額	△18,724
合計	116,226

- ②リース債権及びリース投資資産に係るリース料債権部分の金額の回収予定額

(単位：百万円)

	リース債権に係るリース料債権部分	リース投資資産に係るリース料債権部分
1年以内	171	12,938
1年超2年以内	99	12,822
2年超3年以内	45	17,913
3年超4年以内	22	8,340
4年超5年以内	0	12,657
5年超	17	37,819
合計	355	102,492

- ③リース取引開始日が平成20年4月1日以前に開始する連結会計年度に属する所有権移転外ファイナンス・リース取引につきましては、平成19年連結会計年度末日におけるリース資産の適正な帳簿価額(減価償却累計額控除後)を「リース債権及びリース投資資産」の平成20年連結会計年度期首の価額として計上しております。

また、当該所有権移転外ファイナンス・リース取引の残存期間における利息相当額の各期への配分方法は、定額法によっております。

このため、当該所有権移転外ファイナンス・リース取引について通常の売買処理に係る方法に準じて会計処理を行った場合に比べ、税金等調整前中間純利益は241百万円多く計上されております。

2.オペレーティング・リース取引

(1) 借手側

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：百万円)		
1年内	1年超	合計
28,362	263,662	292,024

(2) 貸手側

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：百万円)		
1年内	1年超	合計
254	242	497

(金融商品関係)

金融商品の時価等に関する事項

(1)平成22年9月30日における中間連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。

なお、その他有価証券中の非上場株式等時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品((3)参照)や子会社株式及び関連会社株式は含めておりません。

(単位：百万円)

	中間連結貸借対照表計上額	時価	差額
① 現金預け金(注)1	4,787,143	4,791,014	3,870
② コールローン及び買入手形(注)1	848,455	849,100	645
③ 買現先勘定	63,038	63,038	—
④ 債券貸借取引支払保証金	4,948,482	4,948,482	—
⑤ 買入金銭債権(注)1	1,038,585	1,046,069	7,483
⑥ 特定取引資産			
売買目的有価証券	3,907,944	3,907,944	—
⑦ 金銭の信託	18,251	18,251	—
⑧ 有価証券			
満期保有目的の債券	3,639,265	3,727,909	88,644
その他有価証券	28,820,898	28,820,898	—
⑨ 貸出金	64,014,946		
貸倒引当金(注)1	△755,370		
	63,259,576	64,534,312	1,274,735
⑩ 外国為替(注)1	975,432	979,772	4,339
⑪ リース債権及びリース投資資産(注)1	114,739	116,907	2,167
資産計	112,421,815	113,803,700	1,381,885
① 預金	78,243,942	78,261,199	17,257
② 譲渡性預金	9,010,215	9,009,514	△700
③ コールマネー及び売渡手形	2,236,437	2,236,435	△1
④ 売現先勘定	1,135,743	1,135,743	—
⑤ 債券貸借取引受入担保金	3,460,943	3,460,943	—
⑥ コマーシャル・ペーパー	351,205	351,205	—
⑦ 特定取引負債			
売付商品債券	2,017,503	2,017,503	—
⑧ 借入金	5,543,012	5,560,863	17,850
⑨ 外国為替	264,723	264,723	—
⑩ 短期社債	336,985	336,985	—
⑪ 社債	3,416,360	3,565,811	149,450
⑫ 信託勘定借	187,298	187,298	—
負債計	106,204,372	106,388,228	183,855
デリバティブ取引(注)2			
ヘッジ会計が適用されていないもの	97,814	97,814	—
ヘッジ会計が適用されているもの	424,365	424,365	—
デリバティブ取引計	522,179	522,179	—

(注) 1. 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。なお、現金預け金、コールローン及び買入手形、買入金銭債権、外国為替並びにリース債権及びリース投資資産に対する貸倒引当金については、重要性が乏しいため、中間連結貸借対照表計上額から直接減額しております。  
2. 特定取引資産・負債及びその他有価証券・負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示しております。  
なお、デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しております。

## (2) 金融商品の時価の算定方法

## 資産

①現金預け金、②コールローン及び買入手形、③買現先勘定、④債券貸借取引支払保証金、⑤貸出金、⑥外国為替並びに⑦リース債権及びリース投資資産

これらの取引のうち、満期のない預け金や返済期限の定めのない当座貸越等については、当該取引の特性により、時価は帳簿価額に近似しているものと想定されるため、帳簿価額をもって時価としております。

また、中間期末時点における残存期間が6カ月以内の短期の取引についても、時価は帳簿価額に近似しているものと想定されるため、主として帳簿価額をもって時価としております。

残存期間が6カ月を超える取引については、原則として、与信先の内部格付や担保設定状況等を勘案した将来キャッシュ・フローの見積額を、無リスク金利に一定の経費率を勘案したレートにて割り引いた現在価値をもって時価としております。一部の連結子会社においては、約定金利により算出した将来キャッシュ・フローの見積額を、無リスク金利に信用リスク・プレミアム等を加味したレートにて割り引いた現在価値をもって時価としております。

なお、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等については、将来キャッシュ・フローの見積額の現在価値又は担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しており、時価は中間連結決算日における貸借対照表価額から現在の貸倒見積高を控除した金額に近似していることから、当該価額をもって時価としております。

## ⑤買入金銭債権

買入金銭債権のうち、商品投資受益権等で市場価格があるものは、当中間連結会計期間末日の市場価格を時価としております。住宅ローン債権流動化に伴う劣後信託受益権については、同信託における原ローン債権等の資産評価額から優先受益権等の評価額を差し引いた価額をもって時価としております。その他の取引については、原則として④貸出金等と同様の方法により算定した価額をもって時価としております。

## ⑥特定取引資産

トレーディング目的で保有する債券等の有価証券については、原則として当中間連結会計期間末日の市場価格をもって時価としております。

## ⑦金銭の信託

金銭の信託については、原則として、信託財産である有価証券を④有価証券と同様の方法により算定した価額をもって時価としております。

## ⑧有価証券

原則として、株式(外国株式を含む。)については当中間連結会計期間前1カ月の市場価格の平均をもって時価としております。公募債等、株式以外の市場価格のある有価証券については、当中間連結会計期間末日の市場価格を基に算定した価額をもって時価としております。

変動利付国債については、「金融資産の時価の算定に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第25号)を踏まえ、国債の利回り等から見積もった将来キャッシュ・フローを、同利回りに基づく割引率を用いて割り引くことにより算定した価額をもって時価としており、国債の利回り及び同利回りのボラティリティが主な価格決定変数であります。市場価格のない私募債等については、与信先の内部格付や担保設定状況等を勘案した将来キャッシュ・フローの見積額を、無リスク金利に一定の経費率を勘案したレートにて割り引いた現在価値をもって時価としております。ただし、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先については、当該債券の額面金額から、貸出金と同様に算定した貸倒見積高相当額を控除した金額をもって時価としております。また、公募投資信託については公表されている基準価格、私募投資信託等については証券会社等より入手する基準価格又は純資産価格より算定した価額をもって時価としております。

## 負債

## ①預金、②譲渡性預金及び⑩信託勘定借

要求払預金、満期のない預り金等については、中間期末における帳簿価額を時価とみなしております。また、中間期末時点における残存期間が6カ月以内の短期の取引については、時価は帳簿価額に近似しているものと想定されるため、帳簿価額をもって時価としております。残存期間が6カ月を超える取引については、原則として、将来のキャッシュ・フローを、新規に当該同種預金を残存期間まで受け入れる際に用いるレートで割り引いた現在価値をもって時価としております。

③コールマネー及び売渡手形、④売現先勘定、⑤債券貸借取引受入担保金、⑥コマース紙、⑦借入金、⑧短期社債及び⑨社債  
中間期末時点における残存期間が6カ月以内の短期の取引については、時価は帳簿価額に近似しているものと想定されるため、帳簿価額をもって時価としております。残存期間が6カ月を超える取引については、原則として、将来のキャッシュ・フローを、市場における同種商品による残存期間までの再調達レートで割り引いた現在価値をもって時価としております。なお、社債については、証券会社の提示するベンチマーク債や公募劣後債の利回り情報等から算出した割引レートによって割り引いた現在価値をもって時価としております。

## ⑦特定取引負債

トレーディング目的で行う売付債券等については、原則として、当該債券等の当中間連結会計期間末日の市場価格をもって時価としております。

## ⑨外国為替

他の銀行から受入れた外貨預り金等満期のない預り金については、中間期末における帳簿価額を時価とみなしております。

また、外国為替関連の短期借入金等の時価は帳簿価額に近似しているものと想定されるため、帳簿価額をもって時価としております。

## デリバティブ取引

取引所取引については、取引所等における最終の価格をもって時価としております。店頭取引のうち、金利・通貨・株式・債券及びクレジットデリバティブについては、将来キャッシュ・フローの割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定した中間期末時点におけるみなし決済金額をもって時価としております。また、商品関連デリバティブ取引については、取引対象物の価格、契約期間等の構成要素に基づき算定した中間期末時点におけるみなし決済金額をもって時価としております。

(3) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品は次のとおりであります。

(単位：百万円)

区分	中間連結貸借対照表計上額
買入金銭債権	
市場価格のない買入金銭債権(注)1	7,829
有価証券	
非上場株式等(注)2(注)4	264,633
組合出資金等(注)3(注)4	323,212
合計	595,676

(注) 1. 市場価格がなく、合理的な価格の見積もりが困難である、エクイティ性の強い貸付債権信託受益権であります。  
2. 非上場株式等については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、時価開示の対象とはしていません。  
3. 市場価格のない出資金等であります。組合等への出資のうち、組合の貸借対照表及び損益計算書を純額で取り込む方法により経理しているものについての出資簿価部分を含んでおります。  
4. 当中間連結会計期間において、非上場株式及び組合出資金等について15,469百万円減損処理を行っております。

(ストック・オプション等関係)

ストック・オプションに係る当中間連結会計期間における費用計上額及び科目名

営業経費 5百万円

(1株当たり情報)

(単位：円)

1株当たり純資産額	51,034.84
1株当たり中間純利益金額	3,640.90
潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額	3,640.86

(注) 1. 1株当たり中間純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

1株当たり中間純利益金額	
中間純利益	389,937百万円
普通株主に帰属しない金額 (うち優先配当額)	3,097百万円 (3,097百万円)
普通株式に係る中間純利益	386,840百万円
普通株式の中間期中平均株式数	106,248千株
潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額	
中間純利益調整額	△4百万円
(うち連結子会社及び 持分法適用関連会社の潜在株式による調整額)	(△4百万円)
普通株式増加数	一千株
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要	—

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

純資産の部の合計額	7,060,038百万円
純資産の部の合計額から控除する金額	1,637,668百万円
(うち優先株式)	(210,003百万円)
(うち優先配当額)	(3,097百万円)
(うち新株予約権)	(87百万円)
(うち少数株主持分)	(1,424,480百万円)
普通株式に係る中間期末の純資産額	5,422,370百万円
1株当たり純資産額の算定に用いられた 中間期末の普通株式の数	106,248千株

有価証券の範囲等

- ※1. 中間連結貸借対照表の「有価証券」のほか、「現金預け金」中の譲渡性預け金及び「買入金銭債権」中の貸付債権信託受益権等も含めて記載しております。
- ※2. 「子会社株式及び関連会社株式」については、中間財務諸表における注記事項として記載しております。

(3)減損処理を行った有価証券

有価証券(子会社株式及び関連会社株式を除く。)で時価のあるもののうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落したものについては、原則として時価が取得原価まで回復する見込みがないものとみなして、当該時価をもって貸借対照表価額とし、評価差額を当中間連結会計期間の損失として処理(以下、「減損処理」という。)しております。当中間連結会計期間におけるこの減損処理額は13,492百万円であります。時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、資産の自己査定基準において、有価証券の発行会社の区分毎に次のとおり定めております。

- 破綻先、実質破綻先、破綻懸念先 時価が取得原価に比べて下落
- 要注意先 時価が取得原価に比べて30%以上下落
- 正常先 時価が取得原価に比べて50%以上下落

なお、破綻先とは破産、特別清算等、法的に経営破綻の事実が発生している発行会社、実質破綻先とは破綻先と同等の状況にある発行会社、破綻懸念先とは現在は経営破綻の状況にないが今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる発行会社、要注意先とは今後の管理に注意を要する発行会社であります。また、正常先とは破綻先、実質破綻先、破綻懸念先及び要注意先以外の発行会社であります。

(1)満期保有目的の債券

(単位：百万円)

	種類	平成22年9月末		
		中間連結貸借対照表計上額	時価	差額
時価が中間連結貸借対照表計上額を超えるもの	国債	3,230,628	3,307,142	76,514
	地方債	161,328	165,452	4,124
	社債	240,160	248,197	8,037
	その他	2,694	2,704	9
	小計	3,634,812	3,723,497	88,685
時価が中間連結貸借対照表計上額を超えないもの	国債	—	—	—
	地方債	250	250	△0
	社債	207	206	△0
	その他	11,995	11,954	△40
	小計	12,452	12,412	△40
合計		3,647,264	3,735,909	88,644

(2)その他有価証券

(単位：百万円)

	種類	平成22年9月末		
		中間連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
中間連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	1,226,195	842,310	383,885
	債券	16,619,968	16,483,139	136,828
	国債	13,286,213	13,227,867	58,345
	地方債	367,685	362,997	4,687
	社債	2,966,069	2,892,274	73,795
	その他	4,452,321	4,350,217	102,104
	小計	22,298,485	21,675,667	622,818
中間連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	923,133	1,174,928	△251,794
	債券	4,383,497	4,387,263	△3,765
	国債	4,101,723	4,102,155	△431
	地方債	4,965	4,968	△3
	社債	276,808	280,138	△3,330
	その他	1,669,599	1,718,001	△48,402
小計	6,976,230	7,280,192	△303,962	
合計		29,274,716	28,955,860	318,855

(注) 1. 差額のうち、時価ヘッジの適用により損益に反映させた額は968百万円(費用)であります。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められるその他有価証券

(単位：百万円)

	中間連結貸借対照表計上額
株式	258,759
その他	336,916
合計	595,676

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。



**有価証券関係** (平成21年度中間期 自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)

**有価証券の範囲等**

- ※1. 中間連結貸借対照表の「有価証券」のほか、「現金預け金」中の譲渡性預け金及び「買入金銭債権」中の貸付債権信託受益権等も含めて記載しております。
- ※2. 「子会社株式及び関連会社株式」については、中間財務諸表における注記事項として記載しております。

**(1)満期保有目的の債券で時価のあるもの**

(単位：百万円)

	平成21年9月末		
	中間連結貸借対照表計上額	時価	差額
国債	2,391,671	2,437,413	45,741
地方債	121,019	123,581	2,562
社債	405,936	412,813	6,876
その他	7,684	7,533	△151
合計	2,926,313	2,981,342	55,028

(注) 時価は、当中間連結会計期間末日における市場価格等に基づいております。

**(2)その他有価証券で時価のあるもの**

(単位：百万円)

	平成21年9月末		
	取得原価	中間連結貸借対照表計上額	評価差額
株式	2,003,936	2,501,701	497,765
債券	14,486,834	14,550,128	63,294
国債	13,850,159	13,908,085	57,925
地方債	199,568	201,521	1,953
社債	437,106	440,521	3,415
その他	3,769,847	3,775,124	5,276
合計	20,260,618	20,826,954	566,335

- (注) 1. 中間連結貸借対照表計上額は、株式(外国株式を含む。)については主として当中間連結会計期間末前1カ月の市場価格の平均に基づいて算定された額により、また、それ以外については、当中間連結会計期間末日における市場価格等に基づく時価により、それぞれ計上したものであります。
2. その他有価証券として保有する変動利付国債については、「金融資産の時価の算定に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第25号)を踏まえ、合理的に算定された価額をもって貸借対照表価額としております。
- なお、変動利付国債の合理的に算定された価額は、国債の利回り等から見積もった将来キャッシュ・フローを、同利回りに基づく割引率を用いて割り引くことにより算定しており、国債の利回り及び同利回りのボラティリティが主な価格決定変数であります。
3. その他有価証券で時価のあるもののうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落したのものについては、原則として時価が取得原価まで回復する見込みがないものとみなして、当該時価をもって貸借対照表価額とし、評価差額を当中間連結会計期間の損失として処理(以下、「減損処理」という。)しております。当中間連結会計期間におけるこの減損処理額は2,520百万円であります。時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、資産の自己査定基準において、有価証券の発行会社の区分毎に次のとおり定めております。
- |                 |                    |
|-----------------|--------------------|
| 破綻先、実質破綻先、破綻懸念先 | 時価が取得原価に比べて下落      |
| 要注意先            | 時価が取得原価に比べて30%以上下落 |
| 正常先             | 時価が取得原価に比べて50%以上下落 |
- なお、破綻先とは破産、特別清算等、法的に経営破綻の事実が発生している発行会社、実質破綻先とは破綻先と同等の状況にある発行会社、破綻懸念先とは現在は経営破綻の状況にないが今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる発行会社、要注意先とは今後の管理に注意を要する発行会社であります。また、正常先とは破綻先、実質破綻先、破綻懸念先及び要注意先以外の発行会社であります。

**(3)時価評価されていない有価証券の主な内容及び中間連結貸借対照表計上額**

(単位：百万円)

	平成21年9月末
満期保有目的の債券	
売掛債権信託受益権等	16,188
その他有価証券	
非上場株式(店頭売買株式を除く)	318,123
非上場債券	2,888,153
非上場外国証券	731,268
その他	585,615

## 金銭の信託関係

(平成22年度中間期 自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)

### (1)満期保有目的の金銭の信託

該当ありません。

### (2)その他の金銭の信託

(運用目的及び満期保有目的以外の金銭の信託)

(単位：百万円)

	平成22年9月末				
	中間連結 貸借対照表 計上額	取得原価	差額	うち中間連結 貸借対照表 計上額が取得 原価を超えるもの	
				うち中間連結 貸借対照表 計上額が取得 原価を超えないもの	うち中間連結 貸借対照表 計上額が取得 原価を超えないもの
その他の金銭の信託	16,812	16,896	△83	—	△83

(注) 1. 中間連結貸借対照表計上額は、当中間連結会計期間末日における市場価格等に基づく時価により計上したものであります。  
2. 「うち中間連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの」「うち中間連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの」はそれぞれ「差額」の内訳であります。

## その他有価証券評価差額金

(平成22年度中間期 自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)

中間連結貸借対照表に計上されている「その他有価証券評価差額金」の内訳は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	平成22年9月末
評価差額	319,915
その他有価証券	319,999
その他の金銭の信託	△83
(△)繰延税金負債	109,415
その他有価証券評価差額金(持分相当額調整前)	210,500
(△)少数株主持分相当額	4,026
(+)持分法適用会社が所有するその他有価証券に係る評価差額金のうち親会社持分相当額	△2,738
その他有価証券評価差額金	203,735

(注) 1. その他有価証券の評価差額のうち、時価ヘッジの適用により損益に反映させた額は968百万円(費用)であります。  
2. その他有価証券の評価差額は時価のない外貨建有価証券の為替換算差額(損益処理分を除く。)を含んでおります。

## 金銭の信託関係

(平成21年度中間期 自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)

### (1)満期保有目的の金銭の信託

該当ありません。

### (2)その他の金銭の信託

(運用目的及び満期保有目的以外の金銭の信託)

(単位：百万円)

	平成21年9月末		
	取得原価	中間連結貸借 対照表計上額	評価差額
その他の金銭の信託	7,890	7,717	△172

(注) 中間連結貸借対照表計上額は、当中間連結会計期間末日における市場価格等に基づく時価により計上したものであります。

## その他有価証券評価差額金

(平成21年度中間期 自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)

中間連結貸借対照表に計上されている「その他有価証券評価差額金」の内訳は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	平成21年9月末
評価差額	564,901
その他有価証券	565,074
その他の金銭の信託	△172
(△)繰延税金負債	150,243
その他有価証券評価差額金(持分相当額調整前)	414,658
(△)少数株主持分相当額	1,727
(+)持分法適用会社が所有するその他有価証券に係る評価差額金のうち親会社持分相当額	△871
その他有価証券評価差額金	412,059

(注) その他有価証券の評価差額は時価のない外貨建有価証券の為替換算差額(損益処理分を除く。)を含んでおります。

### 1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごとの中間連結決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額、時価及び評価損益並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

#### (1) 金利関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	平成22年9月末			
		契約額等	うち1年超	時価	評価損益
金融商品取引所	金利先物				
	売建	37,287,715	1,469,288	△27,535	△27,535
	買建	39,239,082	1,738,574	28,643	28,643
	金利オプション				
	買建	—	—	—	—
店頭	金利先渡契約				
	買建	34,484,936	1,389,661	△189	△189
	金利スワップ	346,256,803	250,577,224	151,141	151,141
	受取固定・支払変動	157,047,249	117,579,947	5,496,098	5,496,098
	受取変動・支払固定	159,377,618	114,886,999	△5,340,307	△5,340,307
	受取変動・支払変動	29,722,268	18,000,612	△3,237	△3,237
	金利スワップオプション				
	買建	3,215,511	2,279,141	△57,748	△57,748
	買建	2,670,742	2,049,025	41,724	41,724
	キャップ				
	買建	23,713,752	5,600,198	△3,763	△3,763
	買建	10,212,453	2,674,078	2,640	2,640
	フロアー				
	買建	571,494	431,235	△14,811	△14,811
	買建	6,815,406	6,622,415	9,877	9,877
	その他				
	買建	707,465	331,576	△17,929	△17,929
買建	2,058,058	863,198	58,180	58,180	
合計			170,233	170,233	

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。  
2. 時価の算定  
取引所取引につきましては、東京金融取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、割引現在価値やオプション価格計算モデルにより算定しております。

#### (2) 通貨関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	平成22年9月末			
		契約額等	うち1年超	時価	評価損益
店頭	通貨スワップ	20,845,774	13,797,538	△376,869	△3,217
	通貨スワップオプション				
店頭	売建	736,849	699,115	△24,058	△24,058
	買建	960,942	796,368	40,272	40,272
	為替予約	38,637,586	3,561,959	123,086	123,086
	通貨オプション				
	買建	3,263,208	2,127,818	△329,348	△329,348
店頭	買建	3,247,639	2,006,103	447,751	447,751
	合計			△119,166	254,485

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。  
2. 時価の算定  
割引現在価値やオプション価格計算モデルにより算定しております。

### (3) 株式関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	平成22年9月末			
		契約額等	うち1年超	時価	評価損益
金融商品取引所	株式指数先物				
	売建	81,574	—	△757	△757
	買建	58,107	—	309	309
店頭	有価証券店頭オプション				
	売建	200,934	18,304	△49,717	△49,717
	買建	207,727	18,304	49,788	49,788
合計			△376	△376	

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。  
2. 時価の算定  
取引所取引につきましては、東京証券取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、オプション価格計算モデル等により算定しております。

### (4) 債券関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	平成22年9月末			
		契約額等	うち1年超	時価	評価損益
金融商品取引所	債券先物				
	売建	1,584,407	—	△16,708	△16,708
	買建	1,462,379	—	16,213	16,213
	債券先物オプション				
	買建	26,162	—	△54	△54
店頭	債券先渡契約				
	買建	46,500	—	91	91
	債券スワップ				
	買建	9,646	—	63	63
	買建	40,234	37,188	736	736
店頭	債券店頭オプション				
	買建	109,837	—	△1,106	△1,106
	買建	114,917	—	58	58
合計			△705	△705	

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。  
2. 時価の算定  
取引所取引につきましては、東京証券取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、割引現在価値やオプション価格計算モデルにより算定しております。

### (5) 商品関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	平成22年9月末			
		契約額等	うち1年超	時価	評価損益
金融商品取引所	商品先物				
	買建	73,430	—	△3,445	△3,445
	買建	73,880	—	3,556	3,556
店頭	商品スワップ				
	固定価格受取・変動価格支払	200,389	183,981	△30,231	△30,231
	変動価格受取・固定価格支払	142,007	122,350	75,085	75,085
	変動価格受取・変動価格支払	41	27	0	0
	商品オプション				
	買建	16,147	14,913	△428	△428
	買建	9,746	5,596	962	962
合計			45,498	45,498	

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。  
2. 時価の算定  
取引所取引につきましては、ニューヨーク・マーカンタイル取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、取引対象物の価格、契約期間等の構成要素に基づき算定しております。  
3. 商品は燃料及び金属等に係るものであります。

## (6)クレジットデリバティブ取引

(単位：百万円)

区分	種類	平成22年9月末			
		契約額等	うち1年超	時価	評価損益
店頭	クレジット・デフォルト・オプション				
	売建	1,158,375	1,002,799	△63,076	△63,076
	買建	1,260,045	848,224	65,406	65,406
合計			2,329	2,329	

- (注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。  
 2. 時価の算定  
 割引現在価値やオプション価格計算モデルにより算定しております。  
 3. 「売建」は信用リスクの引受取引、「買建」は信用リスクの引渡取引であります。

## 2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引について、取引の対象物の種類別、ヘッジ会計の方法別の中間連結決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額及び時価並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

### (1)金利関連取引

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	平成22年9月末		
			契約額等	うち1年超	時価
原則的処理方法	金利先物	貸出金、その他 有価証券(債券)、 預金、譲渡性預 金等の有利息の 金融資産・負債	83,800	—	3
			18,299,726	1,790,011	3,226
	金利スワップ	貸出金、その他 有価証券(債券)、 預金、譲渡性預 金等の有利息の 金融資産・負債	33,510,669	28,346,935	76,180
			23,906,954	19,801,738	507,270
			9,574,308	8,516,290	△431,739
	金利スワップオプション	貸出金、その他 有価証券(債券)、 預金、譲渡性預 金等の有利息の 金融資産・負債	29,406	28,906	649
			471,073	460,905	5,824
			676	—	△0
	キャップ	貸出金、その他 有価証券(債券)、 預金、譲渡性預 金等の有利息の 金融資産・負債	—	—	—
			300	—	0
フロアー	貸出金、その他 有価証券(債券)、 預金、譲渡性預 金等の有利息の 金融資産・負債	42	—	△0	
		7,850	7,850	0	
ヘッジ対象に係る損益を認識する方法	金利スワップ	貸出金、その他 有価証券(債券)	66,384	43,762	△5,255
			66,384	43,762	△5,255
金利スワップの特例処理	金利スワップ	貸出金、借入金	7,533,839	6,700,739	(注)3
			7,533,839	6,700,739	
合計					79,978

- (注) 1. 主として「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号)に基づき、繰延ヘッジによっております。  
 2. 時価の算定  
 取引所取引につきましては、東京金融取引所における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、割引現在価値やオプション価格計算モデルにより算定しております。  
 3. 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている借入金等と一体として処理されているため、その時価は「金融商品関係」の当該借入金等の時価に含めて記載しております。

## (2)通貨関連取引

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	平成22年9月末		
			契約額等	うち1年超	時価
原則的処理方法	通貨スワップ 為替予約	外建の貸出金、その他有価証券(債券、預金、外貨預金等)	2,111,498	1,847,315	342,914
			4,750	4,750	234
ヘッジ対象に係る損益を認識する方法	通貨スワップ	預金	29,852	—	1,910
為替予約等の振当処理	為替予約	預金、その他有価証券(債券)	103,027	3,179	(注)3
合計					345,059

- (注) 1. 主として「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号)に基づき、繰延ヘッジによっております。  
 2. 時価の算定  
 割引現在価値により算定しております。  
 3. 為替予約等の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている預金等と一体として処理されているため、その時価は「金融商品関係」の当該預金等の時価に含めて記載しております。

### (3)株式関連取引

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	平成22年9月末		
			契約額等	うち1年超	時価
ヘッジ対象に係る損益を認識する方法	有価証券店頭指数等スワップ 株価指数変化率受取・金利支払 金利受取・株価指数変化率支払	その他有価証券 (株式)	—	—	—
合計			8,067	8,067	△673

- (注) 時価の算定  
 割引現在価値により算定しております。

デリバティブ取引関係 (平成21年度中間期 自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)

(1)金利関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	平成21年9月末		
		契約額等	時価	評価損益
金融商品取引所	金利先物	48,707,503	6,188	6,188
	金利オプション	631,540	40	40
店頭	金利先渡契約	22,968,000	616	616
	金利スワップ	377,219,181	152,331	152,331
	金利スワップション	4,555,154	6,162	6,162
	キャップ	41,006,963	△7,087	△7,087
	フロアー	6,789,459	△9,732	△9,732
	その他	3,990,673	73,219	73,219
合計			221,738	221,738

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。  
 なお、繰延ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

(2)通貨関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	平成21年9月末		
		契約額等	時価	評価損益
店頭	通貨スワップ	23,220,408	△220,967	58,478
	通貨スワップション	1,781,424	18,278	18,278
	為替予約	35,228,814	179,550	179,550
	通貨オプション	7,733,653	93,736	93,736
合計			70,597	350,043

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。  
 なお、繰延ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引及び外貨建金銭債権債務等に付されたもので当該外貨建金銭債権債務等の中間連結貸借対照表表示に反映されているもの、又は当該外貨建金銭債権債務等が連結手続上消されたものについては、上記記載から除いております。

(3)株式関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	平成21年9月末		
		契約額等	時価	評価損益
金融商品取引所	株式指数先物	49,921	55	55
	株式指数オプション	17,950	△112	△112
店頭	有価証券店頭オプション	451,611	0	0
合計			△56	△56

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。  
 なお、繰延ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

(4)債券関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	平成21年9月末		
		契約額等	時価	評価損益
金融商品取引所	債券先物	2,458,192	△125	△125
	債券先物オプション	139,687	△311	△311
店頭	債券先渡契約	46,449	844	844
合計			407	407

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。  
 なお、繰延ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

(5)商品関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	平成21年9月末		
		契約額等	時価	評価損益
金融商品取引所	商品先物	445	2	2
店頭	商品スワップ	442,801	58,899	58,899
	商品オプション	38,162	1,294	1,294
合計			60,197	60,197

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。  
 なお、繰延ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。  
 2. 商品は燃料及び金属等に係るものであります。

(6)クレジットデリバティブ取引

(単位：百万円)

区分	種類	平成21年9月末		
		契約額等	時価	評価損益
店頭	クレジット・デフォルト・オプション	2,729,621	3,995	3,995
合計			3,995	3,995

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。  
 なお、繰延ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

(1)セグメント情報

1. 報告セグメントの概要

当行グループの報告セグメントは、当行グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定や業績評価のために、定期的に経営成績等の報告を受ける対象となっているものであります。

当行グループは、銀行業務のほか、証券業務、リース業務、クレジットカード業務、投融資業務、融資業務、ベンチャーキャピタル業務などの金融サービスに係る事業を行っており、そのうち、主要業務である「銀行業」及び「証券業」を独立した報告セグメントとしております。また、その他の業務については集約して「その他事業」としてしております。

なお「銀行業」には、預金業務、貸出業務、商品有価証券売買業務、有価証券投資業務、内国為替業務、外国為替業務、金融先物等の受託等業務、社債受託及び登録業務、信託業務、証券投資信託・保険商品の窓口販売業務、証券仲介業務等が含まれますが、当行においては、顧客マーケットに対応した「個人部門」、「法人部門」、「企業金融部門」及び「国際部門」とトレジャリー業務を行う「市場営業部門」の5部門に分類した収益管理を行っております。

2. 報告セグメントごとの利益又は損失の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理方法は、「中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。持分法適用会社の損益につきましては、経常利益に持分比率を乗じた金額を「その他損益」に含めて計上しております。

なお、資産につきましては、事業セグメント別の管理を行っておりません。

3. 報告セグメントごとの利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	平成22年度中間期									
	銀行業								その他	小計
	三井住友銀行									
	個人部門	法人部門	企業金融部門	国際部門	市場営業部門	本社管理				
業務粗利益	838,587	190,191	220,720	98,963	88,826	251,717	△11,829	117,008	955,595	
金利収益	488,242	169,983	138,114	65,413	53,674	73,896	△12,837	73,036	561,278	
非金利収益	350,344	20,208	82,606	33,550	35,152	177,821	1,007	43,972	394,316	
経費	△345,330	△143,393	△109,540	△17,660	△29,060	△8,936	△36,741	△67,766	△413,096	
うち減価償却費	△34,107	△12,726	△10,645	△2,489	△2,896	△1,571	△3,780	△4,926	△39,033	
その他損益	—	—	—	—	—	—	—	△19,238	△19,238	
連結業務純益	493,256	46,798	111,180	81,303	59,766	242,781	△48,571	30,003	523,259	

	平成22年度中間期				
	証券業			その他 事業等	合計
	日興 コーディアル 証券	その他	小計		
業務粗利益	104,661	460	105,122	42,421	1,103,139
金利収益	△1,433	257	△1,176	16,337	576,439
非金利収益	106,095	202	106,298	26,084	526,699
経費	△81,567	△809	△82,376	△18,530	△514,004
うち減価償却費	△1,028	△482	△1,511	△5,833	△46,379
その他損益	△45	△2,249	△2,295	△14,255	△35,789
連結業務純益	23,048	△2,598	20,450	9,635	553,345

- (注) 1. 損失または減益の場合には、金額頭に△を付しております。  
 2. 連結業務純益＝三井住友銀行業務純益＋他の連結会社の経常利益(臨時要因調整後)＋持分法適用会社経常利益×持分割合－内部取引(配当等)  
 3. その他損益＝三井住友銀行を除く連結子会社の営業外損益等＋持分法適用会社経常利益×持分割合等  
 4. 日興コーディアル証券の連結業務純益の欄には、営業利益を示しており、営業外損益は「証券業」のその他に含めております。  
 5. その他事業等には、各セグメント間の内部取引として消去すべきものを含めております。

## 4. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と中間連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	平成22年度中間期
	金額
連結業務純益	553,345
三井住友銀行の不良債権処理額	△43,889
三井住友銀行の株式等損益	△18,296
三井住友銀行の退職給付未認識債務償却	△18,999
報告セグメント対象外の連結子会社経常利益	31,436
報告セグメント対象外ののれん償却額	△6,715
持分法適用会社損益調整	△2,862
その他	△1,928
中間連結損益計算書の経常利益	492,089

- (注) 1. 損失または減益の場合には、金額頭部に△を付しております。  
 2. 不良債権処理額＝貸倒引当金繰入額(除く一般貸倒引当金換算差)＋貸出金償却＋貸出債権売却損等  
 3. 株式等損益＝株式等売却益－株式等売却損－株式等償却  
 4. 持分法適用会社損益調整＝持分法適用会社中間純利益×持分割合－持分法適用会社経常利益×持分割合

## (追加情報)

当中間連結会計期間から「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

## (2) 関連情報

## 1. サービスごとの情報

(単位:百万円)

	平成22年度中間期			
	銀行業	証券業	その他 事業	合計
外部顧客に対する経常収益	1,297,192	110,778	78,273	1,486,244

(注) 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 経常収益

(単位:百万円)

平成22年度中間期				
日本	米州	欧州・中近東	アジア・ オセアニア	合計
1,290,685	71,989	49,314	74,254	1,486,244

- (注) 1. 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。  
 2. 当行(海外店を除く。)及び国内連結子会社の取引に係る経常収益は「日本」に分類しております。また、当行の海外店及び在外連結子会社の取引に係る経常収益は、海外店及び各社の所在地を基礎とし、地理的な近接度等を考慮の上、「米州」「欧州・中近東」「アジア・オセアニア」に分類しております。  
 3. 「米州」にはアメリカ合衆国、ブラジル連邦共和国、カナダ等が、「欧州・中近東」には英国、ドイツ連邦共和国、フランス共和国等が、「アジア・オセアニア」には中華人民共和国、シンガポール共和国、オーストラリア連邦等が属しております。

## (2) 有形固定資産

(単位:百万円)

平成22年度中間期				
日本	米州	欧州・中近東	アジア・ オセアニア	合計
800,898	6,154	3,799	2,843	813,696

## 3. 主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する経常収益で中間連結損益計算書の経常収益の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

## (3) 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

(単位:百万円)

	平成22年度中間期			
	銀行業	証券業	その他 事業	合計
減損損失	1,299	—	13	1,312

## (4) 報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

(単位:百万円)

	平成22年度中間期			
	銀行業	証券業	その他 事業	合計
当中間期償却額	244	4,568	2,525	7,338
当中間期末残高	9,465	171,513	—	180,978

## (5) 報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

該当ありません。

## (6) 報告セグメントごとの与信関係費用に関する情報

(単位:百万円)

	平成22年度中間期			
	銀行業	証券業	その他 事業等	合計
与信関係費用	71,826	65	9,202	81,094

- (注) 1. 与信関係費用＝貸倒引当金繰入額＋貸出金償却＋貸出債権売却損等＋償却債権取立益  
 2. その他事業等には、各セグメント間の内部取引として消去すべきものを含めております。

[参考]

セグメント情報

(1)事業の種類別セグメント情報

平成22年度中間期 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)

(単位:百万円)

	平成22年度中間期					
	銀行業	証券業	その他事業	計	消去又は全社	連結
I 経常収益						
(1)外部顧客に対する経常収益	1,297,192	110,778	78,273	1,486,244	—	1,486,244
(2)セグメント間の内部経常収益	19,896	1,173	98,601	119,670	(119,670)	—
計	1,317,088	111,951	176,875	1,605,915	(119,670)	1,486,244
経常費用	881,243	95,691	149,787	1,126,722	(132,567)	994,155
経常利益	435,845	16,260	27,087	479,192	12,896	492,089
II 資産	116,647,543	8,266,605	4,305,754	129,219,903	(3,252,633)	125,967,269

(注) 1. 事業区分は内部管理上採用している区分によっております。また、一般企業の売上高及び営業利益に代えて、それぞれ経常収益及び経常利益を記載しております。

2. 各事業の主な内容

(1)銀行業.....銀行業

(2)証券業.....証券業

(3)その他事業.....リース、クレジットカード、投融資、融資、ベンチャーキャピタル、システム開発・情報処理業

平成21年度中間期 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)

(単位:百万円)

	平成21年度中間期				
	銀行業	その他事業	計	消去又は全社	連結
I 経常収益					
(1)外部顧客に対する経常収益	1,192,743	75,246	1,267,989	—	1,267,989
(2)セグメント間の内部経常収益	15,461	93,794	109,255	(109,255)	—
計	1,208,204	169,040	1,377,245	(109,255)	1,267,989
経常費用	1,032,393	125,131	1,157,524	(104,847)	1,052,677
経常利益	175,811	43,908	219,720	(4,408)	215,311
II 資産	112,641,749	4,889,308	117,531,057	(3,235,129)	114,295,928

(注) 1. 事業区分は内部管理上採用している区分によっております。また、一般企業の売上高及び営業利益に代えて、それぞれ経常収益及び経常利益を記載しております。

2. 各事業の主な内容

(1)銀行業.....銀行業

(2)その他事業.....リース、証券、クレジットカード、投融資、融資、ベンチャーキャピタル、システム開発・情報処理業



**(2)所在地別セグメント情報**

平成22年度中間期 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)

(単位:百万円)

	平成22年度中間期						
	日本	米州	欧州・中近東	アジア・オセアニア	計	消去又は全社	連結
経常収益							
(1)外部顧客に対する経常収益	1,290,685	71,989	49,314	74,254	1,486,244	—	1,486,244
(2)セグメント間の内部経常収益	10,138	39,682	1,030	839	51,690	(51,690)	—
計	1,300,824	111,671	50,345	75,094	1,537,935	(51,690)	1,486,244
経常費用	920,194	39,973	34,893	50,501	1,045,562	(51,406)	994,155
経常利益	380,629	71,698	15,452	24,592	492,373	(284)	492,089

- (注) 1. 当行の本支店及び連結子会社について、地理的近接度、経済活動の類似性、事業活動の相互関連性等を考慮して国内と国又は地域ごとに区分の上、一般企業の売上高及び営業利益に代えて、それぞれ経常収益及び経常利益を記載しております。
2. 「米州」にはアメリカ合衆国、ブラジル連邦共和国、カナダ等が、「欧州・中近東」には英国、ドイツ連邦共和国、フランス共和国等が、「アジア・オセアニア」には中華人民共和国、シンガポール共和国、オーストラリア連邦等が属しております。

平成21年度中間期 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)

(単位:百万円)

	平成21年度中間期						
	日本	米州	欧州・中近東	アジア・オセアニア	計	消去又は全社	連結
経常収益							
(1)外部顧客に対する経常収益	1,058,846	86,522	64,433	58,187	1,267,989	—	1,267,989
(2)セグメント間の内部経常収益	15,718	54,099	1,623	1,692	73,132	(73,132)	—
計	1,074,564	140,621	66,056	59,879	1,341,122	(73,132)	1,267,989
経常費用	947,693	81,337	63,544	32,795	1,125,371	(72,693)	1,052,677
経常利益	126,870	59,283	2,511	27,083	215,750	(438)	215,311

- (注) 1. 当行の本支店及び連結子会社について、地理的近接度、経済活動の類似性、事業活動の相互関連性等を考慮して国内と国又は地域ごとに区分の上、一般企業の売上高及び営業利益に代えて、それぞれ経常収益及び経常利益を記載しております。
2. 「米州」にはアメリカ合衆国、ブラジル連邦共和国、カナダ等が、「欧州・中近東」には英国、ドイツ連邦共和国、フランス共和国等が、「アジア・オセアニア」には中華人民共和国、シンガポール共和国、オーストラリア連邦等が属しております。

**(3)海外経常収益**

(単位:百万円)

	平成21年度中間期 自平成21年4月1日 至平成21年9月30日	平成22年度中間期 自平成22年4月1日 至平成22年9月30日
海外経常収益	209,143	195,559
連結経常収益	1,267,989	1,486,244
海外経常収益の連結経常収益に占める割合	16.5%	13.2%

- (注) 1. 一般企業の海外売上高に代えて、海外経常収益を記載しております。
2. 海外経常収益は、当行の海外店取引、並びに在外連結子会社の取引に係る経常収益(ただし、連結会社間の内部経常収益を除く。)で、こうした膨大な取引を相手先別に区分していないため、国又は地域毎のセグメント情報は記載しておりません。